



当協会を利用した様々な支援の形！ご紹介します

今月の ケース

コロナ禍における経済的不況の長期化を踏まえ、既に返済緩和を実施している事業者に対し、金融機関との協調体制のもとで、新たに当面の資金を供給したケース

事業 内容

昭和40年代創業の鹿児島市外の事業者で、昭和50年代より観光事業を中心とする多角化経営に乗り出した。盛況時の年商は20億円を超える規模まで拡大、地域になくてはならない存在となった。

しかし、近年は、少子高齢化、生活スタイルの多様化等により減収基調にあり、設備過多となったことから、平成26年に経営改善計画を策定したうえ、返済緩和を実施。改善計画の履行により足許の収益性は良化傾向にあった。



※写真はイメージです

経緯

今般のコロナ禍の経済的不況により、対前年比の売上は、3月▲50%、4月▲80%、5月には▲95%となったことにより、人件費だけで月3千万円の支出を抱える当社は事業存続の危機に陥った。

課題

資金繰り表によると、今年度末までの必要運転資金は4億5千万円程度。過年度より金融機関間での協調体制のもと返済緩和を実施している当社にとって、大型の資金調達は到底困難と思われた。

課題 解決

総借入金の約60%を支援してきたメインバンクでは、更なる追加融資による支援には相応の時間を要すると判断し、新たに、当協会を含む金融機関との協調のもとで、危機対応融資による4億5千万円の支援スキームを構築し、迅速な資金調達を実現した。

【危機対応融資に係る調達スキーム】

- メインバンク(当協会保証付)1億5千万円、期間10年(うち据置1年)、7月融資実行
 - 内訳：①県制度 新型コロナウイルス関連緊急経営対策資金 4千万円
 - ②協会制度 セーフティーネット(4号)保証 7千万円
 - ③協会制度 危機関連保証 4千万円
- 日本政策金融公庫 1億5千万円、期間10年(うち据置1年)、4月融資実行
- 商工組合中央金庫 1億5千万円、期間10年(うち据置1年)、8月融資実行



KSF 重要成功要因

Key Success Factor

【メインバンク】

鹿児島相互信用金庫 担当融資役員

- 代表者との日頃からの対話を通じて、経営改善の進捗状況やその経営手腕を評価していたことが、「返済緩和先への追加運転資金は困難」というバイアスにとらわれない行動に繋がった。
- 今般の経済不況の長期化を予測し、当協会や政府系金融機関との綿密なすり合わせを事前に行ったこと。

【政府系金融機関】

事業継続の必要性や地域に与える影響の大きさを各機関相互で共有できたことが、協調体制による資金供給に繋がった。

【当協会】

創業・経営支援課 担当課長補佐

- 日頃からの保証審査を通じて、メインバンクとの良好な関係性を構築していたため、事前相談を受けた時点で、地域に与える影響の大きさを即座に理解できたこと。
- 迅速・円滑な資金調達の実現のため、最適な保証付融資プランを提示するとともに、内部では上席への事前協議を行ったこと。